

ミライロと関鑑



学生スタッフ NPO 法人学生ネットワークWAN

取材 株式会社アイ・ビー・ビー
代表取締役 廣田 稔さん

■今月の取材先 株式会社アイ・ビー・ビー とは？
「輝きつづけるまち・福岡の思い在る創造。」をグループ理念に、インキュベーションオフィスの運営というハード面の支援と、経営塾・セミナー等のソフト面における起業支援・IPO（株式公開）の支援を行う。

「福岡の地を、未来を創る企業が スタートする場所に」

なぜ不動産の事業を行っている企業が、インキュベーション事業を始めたのでしょうか？

私は大学卒業後福岡を離れ、8年くらい証券会社で勤務していましたが、30歳の頃、福岡に戻って来ました。その3、4年後の1999年、私の父が癌で亡くなり、同じ時期に、所有していたビルも、全て空室になってしまったのです。当時は、90年代の前半で栄えたバブルが崩壊してって、どんどん景気が悪くなり、これからの日本がどうなるかを、誰もが懸念していた時代でした。江戸時代末の開国後、あるいは、第2次世界大戦終結後と同じくらいの大きな改革がないと、これからの日本は駄目になるのでは、とも言われていました。

父の死と、所有ビルの経営悪化に見舞われた私は、会社の行く末を自らの判断で決めなければならなくなりました。そこで私は、「これまでの日本は、時代が変わったときに企業が生まれて、その企業達が今の世の中を支えている」という考えから、あのビルを、**これから福岡を、そして日本を背負っていける企業が生まれていく、スタートの場所にできないか、**と思いました。そうして始めたのが、このインキュベーション事業なのです。今でこそインキュベーション事業と言っていますが、当時はそういう言葉もありませんでした。取り組んでいる自治体や行政の中にはありましたが、民間ではほとんどありません。その中

で新しい企業を育てる場所としてつくってこうとしたのです。

ものすごく大きな決断をされたのですね。廣田社長は、「決断」とどのように向き合っていますか。

今でも継続しているのですが、30歳で福岡に戻ってから、企業で働きながら奉仕活動や社会貢献活動を通して、自分たちを磨いていくという活動をしています。

それまで私は、福岡の街がどうか、世界がどうかそんなに考えていなかったのです。それが、奉仕活動や社会貢献活動を通して海外に行ったり、福岡以外を見たり、色んな人と話をしたりすることによって、今まで「内から外を見る思考回路」だったのが、**「外から内を見る思考回路」**に変わってしまいました。世界の中の日本ってどんな国で、どこが良くてどこが足りないのか、日本の中の福岡ってどのような立ち位置なのか。そんなことを考える中で、「私はずっと福岡に住むことになる。では、福岡の街はどうしたら良くなっていくだろうか」と考え出しました。どんどん人口が減ったり、街が衰退して過疎化したりするような街だったら、いくら立派なものを建てても誰も借りる人がいないので、商売は難しいですね。私達不動産業は、街が発展して初めて成り立つ。だからこそやっぱり、**不動産事業を通して街の発展に貢献する**ことが大事なのではないか、と

考えました。

そしてそれを、いわゆるグループ理念で改めて明文化して、会社の方向性や軸を固めていきました。**大きな理念やビジョンをしっかりと固めていくと、どんなに大きな判断でも、「理念にどう通じているか」「理念とどうリンクしていくのか」が判断材料になっていくのです。**

インキュベーション事業も、不動産事業も、全て理念が前提にあります。例えば、10年ほど前に保育園が入っているマンションをつくりました。当時は、保育園が併設されている賃貸マンションなんてありませんでした。福岡を女性が活躍していく街にしたい。ならば、マンションの中に保育園を作って、子どもを預けて仕事に行きやすい環境をつくれないうか、と。こんなことも、理念がはっきりしていると判断しやすいのです。

理念があるからこそ、時代の一步先を行くアイデアが生まれてくるのですね。

ところで、女性の活躍を応援されている印象がありますが、いかがでしょうか。

社内の女性の比率を上げているというより、今の仕事の内容的に、自然と女性の雇用が増えました。

女性は、納得して一度やると決めると、きめ細やかに取り組んでいく能力に長けていると思うのですよ。仕事においては、**いかに好きになってもらうか**が大切だと考えています。やはり、一度好きになると、とことん頑張ってくれる方が多いです。

なるほど、では、仕事を好きになってもらうために心掛けていることはありますか？

プロセスから関わってもらうことです。「こういう風に決めたらこれやってね」ではなく、ゼロから企画して、実際にアクションを起こす、過程の段階からしっかり関わってもらう。これが大事だと思います。過程をしっかりと分かっていると、アクションするときも、納得してやってくれます。やはり、いかにそれを好きになってもらうか、納得してもらうかですよね。新しい企画やプログラムを作る時は、必ず最初の話し合いの段階から私の横で話を聞いてもらいます。そうするとその後、色々なアクションにうつるときも、一生懸命に意見を出してくれるのです。

好きになってもらうことで活発に動いてもらう、ということですね。

そうです。スタートがうまくいくと、どんどんやってくれます



ね。人間には他燃型と自燃型と、不燃型があると言われています。自燃型は、どんな仕事でも、自分から気づいて自分からアクションしていく人。会社というのは、やっぱりそういう人がたくさんいた方がいいので、男女に限らず、いかに社員の人たちに、自燃型の人間になってもらうかだと思います。だから先程言ったように、過程を見せることによって好きになってもらって、**みんなに自燃型のタイプになってもらう**。それが大切だと思います。

今の福岡をどのように見られていますか。

起業の点で言うと、スタートアップなどで盛り上がっていて、今福岡は全国の中でもかなり起業が活発な地域で、会社を起こす環境としてはすごくいいですね。ほとんどの企業は関東、特に東京中心です。そうすると、同じことをしている人はたくさんいるので、埋もれてしまいます。ですが、地方は会社の数も少ないから、大事にしてもらったり、脚光を浴びやすかったりと、**地方にいる方が有利になっていくことって意外とたくさんある**のです。私達が行っている、上場を目指す会社のためのセミナーにおいて、大分で会社をしている社長も同じことを言っています。地方にいるからこそ集まってくる情報もあるし、色々な人が協力してくれる。だから地方にいる、と。

そうやって、地方でも上場している企業はたくさんあります。地方にもこんなに優れた企業が多いのに、なぜ学生は就職の際に地方の企業を選ばないのかなとさえ感じます。会社の規模が小さくて、会社側は魅力を発信するのが難しいのかもしれませんが、**優良な企業がたくさん眠っている**のです。地方の企業に目を向けるのも、すごくいいと思いますよ。

福岡で就職するのは難しいものと思いましたが、実はたくさんのチャンスがあるのですね。福岡の魅力を改めて見つけたいと思います。また、お話を通して、福岡の発展への貢献は、しっかりとした理念があるからこそ実現していることがわかりました。ありがとうございました！



■NPO法人学生ネットワークWAN とは？
設立16年目を迎える学生主体のNPO。「学生だから～できない」「地方だから～できない」を変えるべく、全国19地域の情報発信支援や、地域の関係人口をつくるコンテンツ企画運営を行っている。私たちの運営するサイトガクログもぜひCHECKしてください！

廣田氏のインタビューの続きや若い世代に向けたメッセージをもっと読みたい方はこちらのQRコードからご覧いただけます。<http://www.gakulog.net/>

